

平成30年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
多角化経営部門

三者の連携・協働による地域活性化と伝統野菜の継承

○氏名又は名称 プロジェクト粟（代表 三浦 雅之）

○所在地 奈良県奈良市

○出品財 経営（在来作物）

○受賞理由

・地域の概要

奈良市は、奈良県の北部に位置し、歴史的文化財や建造物も多く、都市近郊の利点を生かした販売を行う生産者も多い。また、観光産業との相乗効果を高めるために「奈良の在来作物」である「大和の伝統野菜」のブランド化を進めている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

「プロジェクト粟」は、三浦夫妻の、奈良の在来作物を活用した地域活性化事業構想に端を発し、発足した。農業の六次産業化をはじめとした産業創出に取り組む「株式会社 粟」、伝統野菜の調査研究と文化継承を行う「NPO 法人清澄の村」、地元の集落営農組織である「五ヶ谷営農協議会」の3者が連携・協働しながら、大和の伝統野菜に関する情報発信、生産及び農家レストラン等を運営している。また「奈良の在来作物」の発掘、保存、栽培を通して、地域のコミュニティ機能の再構築と地域創造に取り組み、中山間地域の活性化に寄与している。地域内外の幅広い能力を持つ人々が参画、交流し、組織の枠にとらわれない多世代のネットワークが形成され、利益、共益、公益のバランスのとれた事業展開を可能にしている。

・受賞者の特色

（1）在来作物の継承

土地の食文化と共に受け継がれてきた粟やしょうが等の多種多様な在来作物を引き継ぎ、地域の大切な歴史文化資源として大きな価値をもたせるための公益活動が「プロジェクト粟」において行われることにより、中山間地域の営農活動の維持、地域の農村環境が保持されている。

（2）在来作物を使った加工品開発

「五ヶ谷営農協議会」などの地元農家から種子を譲り受けて栽培方法を学び、「NPO 法人清澄の村」が地元の生産者とネットワークを組んで、在来作物の特産化を進めた。また、大学等との連携による商品開発も行い、レストランで提供することで、生産とサービスの好スパイラルを実現している。

・普及性と今後の発展方向

地域資源を活用した農業振興、地域創造の試みは、地域文化の継承、産業と雇用の創出、景観や環境の保全など様々な分野における相乗効果をもたらしている。継続的な活動とするため、伝統野菜を活用するレストラン起業家の支援を行うほか、食べる通信などとも連携しながら、食×農×観光などの波及効果も生み出していく。